3種類の個性豊かな足湯が生む様々な交流のかたち

「四季の湯」… 渓流をイメージし、秋穂で取れた大小様々な石を組合せることで、人間工学的な知見から、自分の背丈にあった居心地の良い場所を見つけることができるよう計画しています。「足湯」という非日常体験の中で、周囲の人と視線が緩やかに交錯するため、見ず知らずの人とも自然と会話が発生するなど、交流を生み出します。

「窓辺の湯」… カフェスペースの一部にあり、建物の内と外を繋ぎます。窓を開け放つことで四季の湯との一体感が生まれると同時に、風の通り道となり、中間期の空調負荷低減にも繋がります。

「言音の湯」… 中原中也の詩を乗せた音楽を聞きながら入ります。地産杉材使用し、ぬくもりを演出すると同時に、調湿作用により、室内環境の快適化も実現しています。ユニバーサルデザインにも配慮し、車椅子を利用したまま入れる浴槽も設置しています。

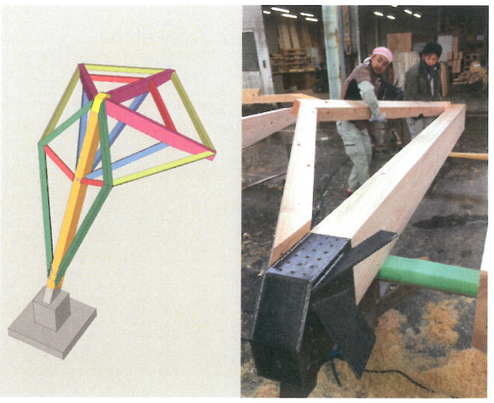
周辺環境との連携

隣接する中原中也記念館と連携し、正面入口を向合せで設置しています。シンボルツリーであるカイヅカイブキを軸に、大ガラス面を設け、一階のカフェスペース、二階の廊下や多目的スペースのどこからも見ることができるよう計画しています。

地元の技術や才能とのコラボレーション

屋外足湯の木造上屋

四季の湯に架かる上屋は、3本の脚で自立する木造の構造体です。計画地では、構造材として使用するに十分な木材を入手しやすいため、木材活用における最先端の工学的知見を活用し、3Dモデルをもとに構造解析を行い、各部材の寸法を決定していきました。その後、材料選定の目利き技術や、3Dに基づく寸法の正確な隅付けと手刻み技術など、地元の職人の高い技術力に支えられ、実現が可能となりました。



足湯のためのオリジナル衣装

本施設のために、地元の服飾デザイナーが、着物をリメイクし、オリジナル衣装をデザインし、製作しました。

「狐の足あと」と湯田温泉のまちづくり

市や地元の方々と一緒に、まちづくりガイドライン「おもてなし西の京」を策定する

狐の足あとの建設に先立って、**まちづくりガイドライン「おもてなし西の京」**を策定し、公共空間の整備を中心に、色や素材の使い方、サインの統一など、具体的なイメージ図や模型、パースなどを作成しました。

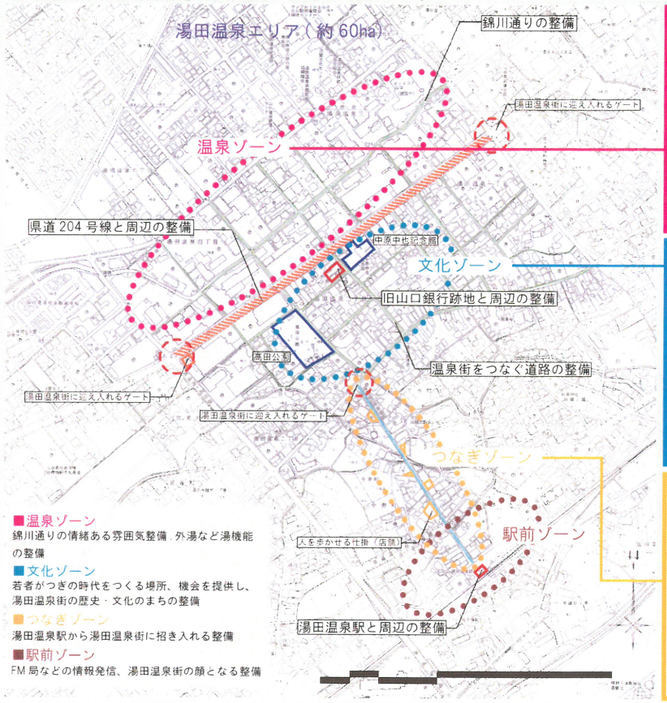
JMAは**会議のファシリテーター役**として、中立な立場で、地元の意見を取り入れながら、市の整備内容とすり合わせを行い、デザインのコンセプトをまとめました。

市・地元の方々との意見交換会を定期的に開催し、模型等を取り囲みながら議論しました

地元の協力や理解を求めて、講演会やワークショップを何度も行いました

ガイドラインに基づき、一貫したコンセプトで街を整備する

▼「おもてなし西の京」で作成されたゾーニングマップ

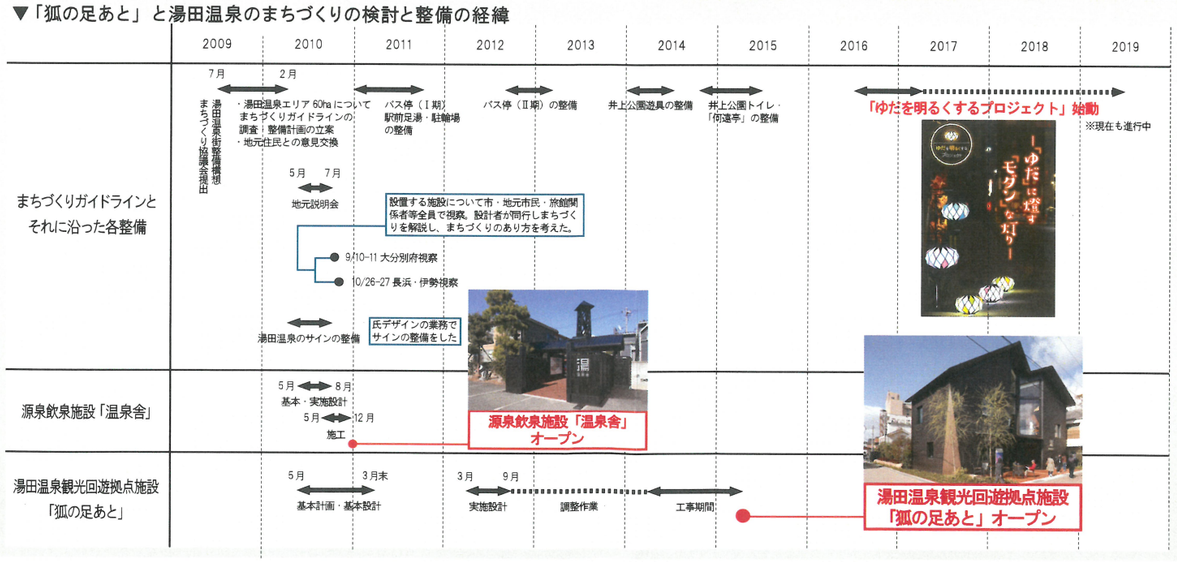


▼ガイドラインをもとにして実際に整備された施設

地場産の木材とガラスを組合せたデザインのバス停を整備

活性化の起爆剤となる施設を整備

回遊を促す案内板を整備

高密収納駐輪場により駅前の景観を整備（左／整備前・右／整備後）

▼「狐の足あと」と湯田温泉のまちづくりの検討と整備の経緯